

## はじめに

私たち 10 名は、自ら希望し、あるいは市内の事業所からの推薦により、市からの委嘱を受けて第五期武蔵野市サラリーマン会議の委員となった。市からは、「武蔵野市第四期基本構想・長期計画の策定にあたり、日頃納税者として市に貢献しているにもかかわらず、市政に対して意見を言う機会の少ないサラリーマンとして、市政に対して多様な視点から意見を出してほしい。」との要請を受け、市で現在行っている事業を中心に勉強をし、8 カ月にわたり検討を行ってきた。

サラリーマン会議は、昭和 63 年の第 1 回から過去 4 回にわたって設置され、その提言はそのつど市の長期計画や調整計画に反映され、それぞれに役割を果たしてきている。前回はインターネット・サラリーマン会議であったが、今回はインターネットというツールによる反省点も踏まえて対面式の会議で行った。また、提言の内容については、過去 4 回の会議で出尽くされている感もあったが、デフレが進行して景気が低迷し、失業率も上昇するなど社会情勢はこの間大きく変化している。その意味から、提言の基調をなすコンセプトは、早い時期から委員全員によって「活力ある武蔵野」と決定した。

つまり、私たちが所属する企業や公的機関も含めて、すべての組織において、現在、時代の変化に即した改革、そして閉塞状況に活路を拓く活性化が求められている。

今、時代は総じて活力を求めている。

武蔵野市にあっても例外ではない。むしろ、武蔵野市には、先進的施策を率先して展開、実現している立場から、さらに、望まれる未来社会における都市のビジョンを明確に描くことが求められている。それを「武蔵野モデル」として具体化することによって、活力ある地域社会づくりの雛形として、地方自治体の今後のあり方のモデルとなる責務があると考えられる。

私たちは、武蔵野市が「ずっと住みたいまち」として、また、武蔵野市の魅力を全国に発信し、外からは「憧れのまち」と呼ばれるようになってほしいと願っている。

そして、私たちは、武蔵野市で暮らす、または事業所で働く勤労者（＝サラリーマン）の立場から、社会経済の活性化を志向し、「活力ある武蔵野」を築くために、今後求められる新たな施策を中心に今回の提言を行う。